

## 1. 研究主題 学んだことを生かして、自ら考え、共に学び合う子の育成

～ 算数科の確かな学力の育成を通して ～

## 2. 主題設定の理由

本校では昨年度まで、「児童の生きる力」の育成を柱として、「自分のよさに気づき、よりよい人間関係を築いていく中で、心豊かに人生を生きていける子を育てたい」という願いから、研究主題を「自己を見つめ、共に心豊かに生きる子の育成」として、研究を進めてきた。昨年度は特に「人間関係形成力の育成」に焦点をあて、「体験」「道徳」「伝え合う力」の有機的関連を図ることにより、「児童の生きる力」を育成することをめざし、国語科の「話す・聞く」の単元・道徳で研究を進めてきた。その結果、豊かな人間関係に基づいた「話す・聞く」力が育ち、「人間関係形成力の育成」にも一定の成果が見られた。また、「話す・聞く」力が育つにつれて、他教科でも話し方・聞き方に成長が見られた。しかし、「話す・聞く」力については、「自分の考えを持って話し合う」ことになると、まだまだ十分とは言えない。

また一方、全国学力状況調査等の結果分析から、算数科における基礎学力・活用する力に弱い傾向があることが分かってきた。本年度は、児童の実態に基づいて、算数科における基礎学力・活用する力を育成することを中心に研究を進めることとした。算数科は、系統性の強い教科であり、これまでに学習したこと（既習）を使って解くことがしやすい教科である。その特性を最大限に生かし、なお且つ、算数科における基礎学力・活用する力を育成することに有効な授業形態として「考える足場」一本時の課題を解決するのに役立つ基礎基本となる知識や考え方を取り入れた授業を行うこととした。

また、算数科は筋道を立てて論理的な話し合いがしやすい教科である。そのような教科の特性から、昨年度からの課題である「自分の考えをもって話し合う力」の育成には非常に適していると考えた。そこで、昨年度までの「伝え合う力」の育成も本年度の取り組みの中に入れ、算数用語やつなぎ言葉を使って、聞く人に分かりやすい説明をしたり、聞いたことをつないで発言したりできるような力をつけ、言語活動の充実を図ることとした。

このように本年度は、学んだこと（既習）を生かして、自ら考え、共に学び合うことのできる子の育成をめざし、算数科の授業を開発・検討し、算数科における確かな学力をつけていきたいと考えた。

以上のことから、主題を「学んだことを生かして、自ら考え、共に学び合う子の育成」、副題を「算数科の確かな学力の育成を通して」と設定し、研究実践していく。

## 3. 研究内容・方法

### < 研究内容 >

☆算数科の基礎的な学力及び活用する力の育成

- ①考える足場を取り入れた授業の開発・検討（授業改善）
- ②話し合い指導を行うことによる言語活動の充実

### < 研究方法 >

○ めざす授業像 「みんながわかる算数」

- 児童に「分かった」「できた」という喜びを持たせられる授業
- 意欲の向上 → 主体的な学び

## ☆算数科の基礎的な学力及び活用する力の育成

### ①考える足場を取り入れた授業の開発・検討（授業改善）

授業改善・・・授業の中で子どもに力をつけるために

○「考える足場」を取り入れることで、子どもたちが理解しやすい授業にする。

→ 考える足場とは・・・一本時の課題を解決するのに役立つ基礎基本となる知識や考え方

既習を活用して本時の学びにつなげることで、子どもたちが同じ足場に立って、授業に参加するための手だて

→ 以前学んだこと（既習）を活用して考える力 → 活用する力の育成

○授業の中で、確実に習熟（適用・活用問題）を行う。

基礎的な学力の習得⇔活用 の繰り返しを行う。

○スモールステップでみんながわかる授業にする。

○これまでの学年の学習内容の復習を授業の中に取り入れる。（スパイラルな学習）

○算数アンケート（関心・意欲）を行う。（年2回）

→ 全校で算数の学力調査を行い、指導や検証に生かす。

○UPUPタイムで行う教科・内容の系統化・共通化を図る。

○一年間かけて、系統的な算数プリントの作成を行い、全校での活用を目指す。

○作成したプリント 及び 授業で提示した物を保管する場所を確保し、継続した研究が行えるようにする。

### ②話し合い指導を行うことによる言語活動の充実

○言語活動を効果的に取り入れる授業に

→ 自分の考えを持ち、説明できる力 → 活用する力の育成

・話し方名人、聞き方名人、言葉の宝箱の活用をする。

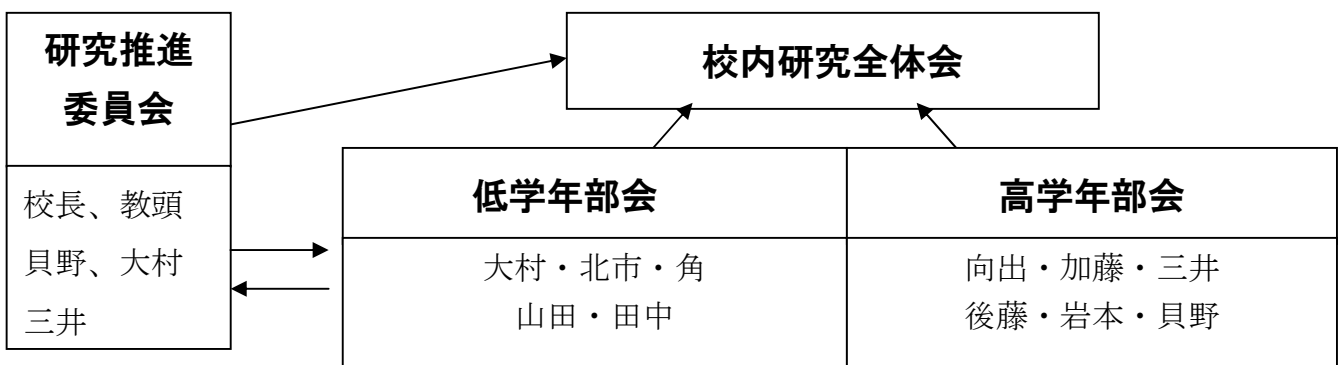
・算数用語の共通化を図る。

・算数の授業に必要な説明のための方法（話型・図表の活用）を身につけさせる。（シナリオ指導）

・言語活動を授業のどの場面で行うと効果的か考える。（ねらいをしっかりと持つ）

・どんな学習形態（ペア学習・グループ学習）で行うとより効果的か場の工夫をする。

## 4. 研究組織



## 5. 研究仮説

### 仮説①

算数科において「考える足場」づくりを取り入れ、学んだことを生かして課題を解くことを繰り返すことで、課題を解くために必要なことを自らが考え、解決する力を高めることができるであろう。

### 仮説②

話し合い指導を繰り返すことで、友達の考えをしっかりと聴いて考える力や自分の考えを聴く人にわかりやすく説明する力がつき、算数科における思考力・表現力を高めることができるであろう。

## 6. 年間計画

4月	体制づくり① 研究のねらい・方法・組織・授業者・授業教科決定、提案授業
5月	第1回 研究授業
6月	第2回 研究授業
7月	第3回 研究授業
10月	第4回 研究授業 計画訪問の研究授業
11月	第5回 研究授業
12月	第6回 研究授業
1月	研究のまとめ
2月	今年度の研究の成果と課題
3月	来年度の計画

- 研究授業は「算数」
- 事前検討会は各ブロックで、授業整理会は全体で行う。
- 計画訪問の5限に研究授業を行い、研究を深める。
- 研究授業の日に石田淳一先生のご都合が合えば来校していただき、授業を見ていただく。その後の授業整理会・研究全体会にも参加していただきご助言・講話をしていただく。